令和６年度　第２回　宗像市健康づくり推進協議会　議事録

日時：令和６年１０月２９日（火）１９：００～２０：３２
場所：宗像市役所　北館２階２０２会議室
出席委員：平尾会長、椛田副会長、伊東委員、富松委員、吉田委員、中谷委員、世戸口委員、
　　緒方委員、石松委員、高崎委員、野中委員、村山委員、小宮委員、今田委員
欠席：北野委員
事務局：【健康福祉部】林田部長、【子ども家庭センター】有吉課長、【学校管理課】椎葉参事、
　【健康課】安川課長、山本主幹、倉冨係長、荒牧企画主査、竹村主任保健師、椎葉企画主査

次第
１　開会挨拶
２　議事・報告事項
（１）第２次健康むなかた２１・第２次健康むなかた食育プラン最終評価のための市民アンケート調査分析結果について
（２）第３次健康むなかた２１・第３次健康むなかた食育プラン策定の進捗状況等について
　〇第三次宗像市総合計画（基本計画）の進捗について
　〇第３次健康むなかた２１・第３次健康むなかた食育プランにおける施策体系
（３）第Ⅱ期宗像市自殺対策推進計画（素案）について
（４）健康づくり関連行事について
３　質疑応答・その他
４　閉会挨拶

議事
（１）第２次健康むなかた２１・第２次健康むなかた食育プラン最終評価のための市民アンケート調査分析結果について
　（事務局より資料１、参考資料１～５を説明後）
会長
・統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査からの膨大なデータをまとめていただいた。その中で気づいた点や質問等がある場合は、挙手の上、マイクをオンにして発言をお願いしたい。
委員
・多くのデータを集約されているが、データはその後どのように活用をするのか。
事務局
・データについては課題などの整理をし、広く市民に公表する。次年度でどの指標を進捗把握していくかを決め、市の取り組みを具体化していく予定である。

委員
・結果は市民へどのような方法で周知するか。
事務局
・ＨＰに掲載することを考えている。
委員
・例えば課題として、高齢者の孤食が増えていることが挙げられており、栄養バランスの取れた食事の啓発が必要になる。高齢者の中にはＨＰを見ることができない人もおり、毎月の広報等で発信するなど、より伝わりやすい方法はできないだろうか。
事務局
・わかりやすく伝えるために、テーマを絞って広報等で特集を組むなどの方法を検討したい。皆様の所属される団体の活動の中でも周知、啓発にご協力をお願いさせていただきたい。
会長
・貴重なデータのため、市民へ届く方法で周知をし、うまく活用していくとよい。
委員
・非常に多くのデータがあるが、市として、予想外だったというデータがあれば教えていただきたい。
事務局
・４歳児保護者のアンケート結果で、家庭内での子どもの受動喫煙の割合が高いことは、少し予想外であった。その他に、飲酒している人の割合は高くはないが、飲酒している人の１回に飲む量が多いことなどが挙げられる。
会長
・８年生のアンケートでは課題として、「朝食を摂る割合が低下して、家族と朝食を摂る機会が「ほとんどない」子どもが最も多く、朝食の孤食が進行」とあり、孤食が進行していることを改めて感じる内容である。
委員
・中学生のアンケート内容は予想通りである。思春期になると、男の子の身体は逆三角形になりひげが生え、声変わりし、筋肉質になる。女の子の身体は、皮下脂肪が増えて丸みを帯びた身体になる。思春期の女の子は、自分の体形や異性を気にして食べ過ぎてはいけないと思い、給食を残すなど少食の傾向にある。少食の傾向は、主に８年生と９年生に多く見られる。
・学校としては把握しており、子どもに「安心してたくさん食べることができる」環境づくりや指導を行っている。しかし、朝食を家族とほとんど一緒に摂らないなど、学校では手の届かない範囲に関することに意見をすることは難しい。子どもだけでなく保護者にも一緒に食育に取り組みましょうという声掛けは必要であると感じている。
会長
・家庭環境や朝の忙しさなど理由はあると思うが、ぜひ協力をお願いしたい。
・他に意見等がなければ、次の議事に進みたい。

（２）第３次健康むなかた２１・第３次健康むなかた食育プラン策定の進捗状況等について
〇第三次宗像市総合計画（基本計画）の進捗について
〇第３次健康むなかた２１・第３次健康むなかた食育プランにおける施策体系
（事務局より資料５-①・資料５-②・資料２を説明後）
会長
・質疑等があれば、お願いしたい。
委員
・総合計画の中の健康・福祉と書かれている資料で、「目標（KPI)」の項目に「KPI（目標)」があるがどういう意味か。
事務局
・表記ミスである。KPI とは目指す姿のために押さえておきたい数値である。今回総合計画で目指す姿として健康寿命の延伸と定め、健康づくりの総合的な指標として「平均自立期間の増加」を設定している。
会長
・第３次健康むなかた２１と第３次健康むなかた食育プランは総合計画に包含され、総合計画の一部に位置付けられる。宗像市健康づくり推進協議会の在り方は変わるのか。
事務局
・健康課としては、健康づくりに関する取組を、宗像市健康づくり推進協議会の委員の皆様と毎年検証しながら、取組内容について協議をして進めていきたい。宗像市健康づくり推進協議会としては、引き続き同じ形でお願いしたいと考えている。
会長
・承知しました。今後も委員の皆様には協力をお願いしたい。
委員
・資料２に、８年生のスマホの利用時間が長いことが課題に挙げられている。８年生に限ることではなく、３歳から利用している子どももいる。私は、実際に親せきの子どもが長時間スマホを使用することに対して、本当に目が悪くなると注意するが、子どもがなかなか言うことを聞かない。８年生に限定した言い方にしないほうがよい。
事務局
・福岡県の調査からも、小中学生のスクリーンタイムが全体的に伸びているという結果が出ている。取組や啓発が必要と思っている。

（３）第Ⅱ期自殺対策推進計画（素案）について
（事務局より資料３・資料３補足を説明後）
会長
・ご意見やご質問がある方はお願いしたい。
委員
・自殺未遂をされている人を市はどのように把握しているのか。私の身近な人で長い間心の病を患っていた人が、今年亡くなった。

事務局

・自殺未遂が起きたという情報は市として、正確に把握はできていない。市への相談の中で、自傷行為があったという話を聞くことがある。その他、要保護児童対策地域協議会での対応や、病院で相談を受けるなど、生活課題の中で過去に自傷行為をしたという話を聞くこともある。市として、自殺未遂を確認するためのシステム的な方法はないが、自傷行為などの話を聞いたときは、自死のリスクが高まっている、または高まりやすいことを十分理解して対応することが大切だと感じている。

委員

・今年度の計画の中で、「遺族の支援の充実」と書かれているが、どのような支援をされているか。

事務局

・他の課と協議する中で、家族を自死で亡くしたことを他人に言うことは難しいだろう、という意見があった。そのため、個別向けの情報発信ではなく、多くの人の目に触れるパンフレットに情報掲載をすることとした。「おくやみ手続きガイドブック」は誰でも手に取ることができるものである。大切な人を亡くされた心の痛みは心の健康の危機であるため、この中で自死遺族に対する相談窓口があることを記載する。その他、市職員に、遺族の相談窓口があることを情報共有している。

委員

・家族としては人に言いたくないことである。市職員全体で対応してもらえるとよい。

委員

・驚いたこととして、子どもにも関連する内容が多い。１つ聞きたいことは、小中一貫コミュニティ・スクール推進事業は自殺とどのように関係があるのか。

事務局

・子ども家庭センターにおいて、児童、保護者などからの相談に応じている。宗像市としても、自傷行為として薬の多量摂取などの事案は複数発生している。その場合は、子ども家庭相談員やスクールソーシャルワーカーと面接を行うことや、養護教諭の先生と連絡をすることなどを実施している。状況に応じて医療機関を勧めることもあり、様々な機関との連携した仕組みを作っている。保健・福祉環境事務所の方や児童相談所の臨床心理士など関係機関との調整や連携も行っている。

・コミュニティ・スクールでは、情報共有や日ごろの活動を行っている。小学校の中高年の段階から自殺未遂や自傷行為が発生している。地域が一体となって連携する体制はできており、コミュニティ・スクールの意義は大きいと感じている。

・ヒアリングの中で、コミュニティ・スクールの取組は、学校や家庭、地域を繋ぐことができているとわかった。子どもの自己有用感を認識させることや家庭、学校以外に話せる大人が地域にいる環境づくりがあることを伝えることが大切である。そのような場所や人への信頼関係づくりがコミュニティ・スクールの意義である。

委員

・コミュニティ・スクールについて知らなかった。中学生は恥ずかしがってしまい、コミュ

ニティ・スクールに来ないのではと思うが実際はどうか。

事務局

・コミュニティ・スクールとは、中学校と小学校を１つの学園とした取組に関することを指す。学園の中で会議を行い、小中の連携を密にすることをコミュニティ・スクールと言う。

委員

・コミュニティ・スクールとは、地域や家庭とも連携し、子どもたちを育てる取組である。不登校児に対して地域の民生委員や主任児童委員などが集まり、地域でどのように支えるかについて議論を行う。学校は子ども家庭センターと、子ども達のことで毎日のように相談しているほど連携を密にとっている。

委員

・過去に、リスクが高まっている児童・生徒が行方不明になった時に、宗像市が各課２名ずつくらい動員して捜索してもらった経験がある。そういった体制は、事前に計画されていたものなのか、その時の指示で実行されたことなのか、伺いたい。

事務局

・リスクが高いと思われる児童・生徒については、本人だけでなく家族も含めて、様々な支援が必要であるため、子ども家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、養護教諭、医療機関などが、一体的に相談を受け、継続的な支援を行っている。そういった中で緊急事態が発生した場合には、日ごろから関連している関係機関を含め、市の中で横断的に職員の応援体制を図るほか、医療機関や警察なども協力して対応する。日頃からの連携があったことで、そのような体制を図ることができたのではないかと思う。

会長

・その他意見、質問等はないか。事例をふまえて色々な意見を聞くことができた。

（４）健康づくり関連行事について

（事務局、委員より各広報物説明）

以上、議論終了